

使命を探して

タリタクム日本ユースアンバサダー代表
細井 梨世



「自分に与えられた使命は何だろう」—。
この問いを、私たちキリスト者は一度ならず自分に投げかけたことがあるのではないのでしょうか。けれど、その答えを見つける道のは決して平坦ではありません。私もまた、その問いの中を歩んでいる一人です。

幼いころからマザー・テレサに憧れ、苦しむ人がいれば誰よりも早く手を差し伸べ、寄り添うことのできる人でありたいと願ってきました。その思いに導かれるように、今は看護師として働いています。そのような中で、私はタリタクムと出会いました。初めは正直なところ、「人身取引という大きな問題に、私のような一人が関われるはずがない」と感じていました。けれど、活動を重ねるうちに、その思いは少しずつ変えられていきました。

タリタクムでの活動を通して、私は改めて「自分の使命」について深く考えるようになりました。マザー・テレサの祈りの歌にある「私をお使いください」という言葉のように、神様の手となり足となって、神様が創られたこの世界といのちを守ること—それが私に与えられた使命なのではないかと思うようになりました。看護師として目の前の患者さんに仕えることも、タリタクム・ユースアンバサダーとして人身取引のない世界を願い行動することも、すべては神様が私に託してくださった愛のわざの一部だと感じます。これが使命そのものなのかはまだ分かりませんが、神様からいただいた賜物をもって平和と正義の実現のために働けること、それ自体が私にとって大きな喜びです。

とはいえ、人身取引という深刻な問題を目の前にすると、無力さを覚えることも少なくありません。「私のしていることに意味はあるのだろうか」と心が揺れることもあります。タリタクムで活動を始めて以来、私はずっと「どうしたら人身取引をなくすことができるのか」という問いの答えを探し続けています。もしその答えを見つけれられていたら、今ごろノーベル平和賞を受賞しているかもしれませんね。もちろん、今も答えは見つかっていません。それでも、ひとつ自分なりに考えていることがあります。それは、「啓発活動」こそが希望の種であるということです。

ユースアンバサダーの活動の中心は「啓発」です。啓発とは、誰かの心を照らし、意識を変えていくこと。人身取引は“人と人との間”で起きている問題です。だからこそ、一人ひとりの心が変わることこそが、最も深いところでの解決につながるのではないのでしょうか。もし物の問題であれば、技術や仕組みで解決できるかもしれませんが、しかし、人の心の問題には、愛と理解、そして神様の恵みが必要です。もちろん、人身取引の背景には貧困や差別、宗教的・文化的要因など、複雑な現実があります。それらに向き合い、寄り添い、共に歩むことなしに解決はあり得ません。それでも私は信じています—神様の愛によって人の心が変われば、この世界も必ず変わっていくと。だから私はこれからも、祈りと共に、希望をもって歩み続けたいと思います。その歩みを、この記事を読んでくださる皆さんとも分かち合いながら、共に進んでいけたら嬉しく思います。



ユースアンバサダー特集

「新メンバー、西村知沙さんより」



タリタクム日本ユースアンバサダーとして活動する中で、若者が人身取引にともに立ち上がることの大切さを、これまで以上に深く実感しています。改めまして、私の名前は西村知沙です。これまでのタリタクムでの活動を通して感じたことを皆さんと共有させてください。



現在、私は大学で国際関係を学んでいます。2025年2月に初めてユースアンバサダーの啓発イベントに参加した際、日本における人身取引の現実を初めて知り、同時に、希望を見つけました。啓発行動を通して、若者である私たちにも社会に変化をもたらす、意味のある行動を起こす力があると気づいたのです。

キリストを信仰する者として、私は出会う全ての人にキリストの存在を見出すことを大切にしています。それは愛を持ってその人が秘めている美しさと尊厳を大切にすることです。タリタクム日本ユースアンバサダーとして活動する中で、この使命がさらに深まりました。リサーチやメンバーとの対話を通して、人身取引の被害者を支援するだけでなく、加害に関わる人々の背景や事情を理解することも大切だと気づきました。そこには、貧困や家庭内暴力、環境問題、社会的不安定や政治的混乱など、さまざまな要因が関係しています。この視点は、人身取引の問題に取り組むうえで、必要なのは「裁き」ではなく「思いやり」「理解」「関係の回復と正義への取り組み」ということではないでしょうか。

タリタクム日本ユースアンバサダー

WALK FOR HUMANITY

私たちと一緒に歩きませんか？

私たちタリタクムのアプリ“walking in dignity”をご存じですか？
なんと、このアプリは携帯にダウンロードするだけであなたの歩数がアプリ内で
コインに変わり、世界中のタリタクムのプロジェクトに寄付できるんです！
あなたのその一歩が人身取引のない世界への1歩になります。
私たちと一緒に歩いて、讀って、祈って、自分にできることを考えませんか。
そして、ロザリオの月である今回は、オリジナルロザリオを作るアクティビティもあります！

2025年10月25日（土）16:30-18:30
集合場所：和田倉噴水公園（東京駅丸の内口から徒歩5分）
解散場所：麹町聖イグナチオ教会
参加費無料 | 事前申し込み必要（右QRコードより） |
途中参加・途中帰宅OK | 持ち物なし | 歩きやすい服装で

また、私たちは人身取引の問題を“自分ごと”として感じてもらえるように、啓発活動を行うことにも情熱を持っています。大学での学びやボランティア経験を通して、日本では海外の人権問題にあまり関心を持たない人が多いと感じています。その背景には、「自分の生活には関係ない」という感覚があるのかもしれませんが。しかし、人身取引の被害者が偏見に苦しむ現状を考えると、私たちの「無関心」もまた、問題の一部となりうるのだと気づかされます。

そのような思いから、私たちが企画する「walk for humanity」というイベントでは、人々がより深くこの問題に心を寄せられるよう工夫しています。参加者はタリタクムが作成した“Walking in Dignity”というアプリを使い、教会までともに歩きな

がら人間の尊厳や連帯について考えるイベントを定期的に開催しています。10月には「ロザリオの月」に合わせて、歩きながらロザリオの祈りを捧げました。信仰と連帯と行動を通して、参加者とメンバーがひとつになる瞬間は本当に美しく、小さな一歩が希望につながるのだと改めて感じました。

最後まで読んでくださりありがとうございます。これからも皆さんとともに声を上げ、小さな一歩を重ねながら、大きな変化を生み出していけたらと思います。



「新メンバー、ヴァレリー・ヴィディアンさんより」

この記事を読んでくださっている皆さん、こんにちは！私はヴァレリーと申します。タリタクム日本ユースアンバサダーの新しいメンバーです。2025年の初めに加わり、これまで本当に充実した時間を過ごしています。私がこれまでに経験したことを、今日は皆さんにお伝えできることを嬉しく思います！



改めまして、私はヴァレリーです。インドネシア出身で、インドネシアで大学を卒業した後、仙台の大学院で勉強するために日本にきました。東京からは少し離れていますが、他のメンバーはとても温かく迎えてくれて、パソコンの画面越しでも強いつながりを感じています。歌うことが好きなのですが、カラオケはちょっと高いので、よくシャワーを浴びながら歌っています（笑）。

もしどこかで私を見かけたら、ぜひ気軽に声をかけてくださいね！

タリタクムニュースレターを読んでくださっている皆さんと、いつかお会いできたら嬉しいです。

タリタクムに加わる前は、あまりタリタクムの活動について知りませんでした。友人から「人身取引の撲滅を目指すユース団体がある」と紹介されましたが、最初は「真面目で、細かくて、危険で、忙しそうな団体」という印象を持ち、参加を少しためらっていました。「自分自身にとっても他の人にとっても、良い影響を与えられる余裕があるのだろうか」と心配だったのです。ですが、実際にメンバーと関わってみると、みんな温かくて前向きな人ばかりで、「ここで一緒に活動したい」と思いました。まだ私がどのような形で貢献できるのか分かりませんが、タリタクムのイベントに参加する中で、「どんなに小さな善い行いでも、人に良い影響を与えることができる」ということを学びました。だからこそ、これからも一緒に頑張っていきたいと思っています。

ご存じの方もいるかもしれませんが、タリタクム日本ユースアンバサダーは若者が中心となって人身取引問題についての意識を広める活動を展開しています。若い世代に世界や日本で起きている人身取引の隠された現実を伝えるために、学校での授業や、その他さまざまな取り組みをしています。

また、昨年8月にはタリタクムアジアの国際会議が開催され、日本からもメンバーが参加し、アジア各国の若者代表たちとつながる貴重な機会がありました。その後、インドのユースアンバサダーとの交流会を開催し互いの国での活動内容や自国で起きている人身取引の現状を共有し、

今後若者としてどんなアクションを起こせるかについて意見交換を行いました。とても刺激的で、参加者それぞれの視点を聞くことが本当に勉強になりました。この経験を通してたくさんの学びを得ることができ、これからの活動にもっと積極的に関わっていきたいと思っています。



タリタクム・アジア会議報告 「思いやりを行動に」

タリタクム日本ユースアンバサダー、マリエル・ルビオ



アジア各国から代表が集い、「Compassion in Action（思いやりを行動に）」をテーマに、インドネシアにてタリタクム・アジア会議が開催されました。本会議は、互いに支え合い、苦しむ人々に寄り添うタリタクムの使命を改めて確認し、思いやりを具体的な行動として生きることの大切さを分かち合う機会となりました。

・各国ネットワークからの報告

初日には、バングラデシュ、カンボジア、インド、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、韓国、タイ、台湾の各国ネットワークより、活動報告と現状の共有が行われました。各国からは、人身取引防止のための取り組み、課題、そして現場での経験が報告されました。多くの国で「移住」が共通の重要課題として挙げられ、地域の枠を超えた協力と理解の必要性が強く示されました。

・思いやりを「行動」に

シスターアビーは講話の中で、「Compassion（思いやり）は受け身ではありません」と語りかけました。信仰を行動として生きること、そして神の愛を具体的な奉仕を通して証しすること-それが私たちの使命であると改めて思い起こされました。デジタル社会の課題や戦争、気候変動など、時代の変化がもたらす新たな挑戦の中にあっても、私たちは信仰と勇気、そして思いやりをもって歩み続けるよう招かれています。

・サバイバーのエンパワメント

2日目は、「サバイバーのエンパワメント」を中心テーマとして、トラウマに配慮した支援の在り方を学びました。サバイバーの一人ひとりが「見られ、聴かれ、支えられている」と実感できる関わりを大切にすることが強調されました。同じ志を持つ仲間たちと学び合いながら、タリタクムという信仰と希望に基づく国際的ネットワークの一員であることへの感謝が新たに深まりました。

・若者たちの声と行動

最終日は、「United Voice, Shared Actions（声をひとつに、共に行動を）」をテーマに、アジア各国のユースアンバサダーとインドネシアの若者たちが集いました。私たちはそれぞれの国の現状を共有し、共に未来のための具体的な行動を考えるワークショップを行いました。彼らの情熱と勇気に触れ、会場全体が新たな希望に包まれました。思いやりを日々生きる会議の最後に心に残った言葉は、「思いやりは、日々の生活の中で生きるもの」。私たちはただの参加者ではなく、愛を行動で示す“証人”としての使命を担っています。これからも、関心を向け、寄り添い、声を上げ続けること-それがタリタクムの歩みであり、人身取引のない世界への一歩です。

この会議での学びと出会いが、私たち一人ひとりのうちに生き続け、「開かれた心・動く手・揺るがぬ信仰」をもって歩み続ける力となりますように。



新たにタリタクム日本・運営委員となられたシスター方の声

Sr. 宮脇道子/Sr. 森裕子/Sr. 脇村ユキエ

ローマを拠点とするタリタクム・インターナショナルは、2009年に女子修道会国際総長連盟（UISG）により設立され、現在、108か国で841の修道会（女子91%、男子9%）が参加しています。男女修道会から私たちの活動に加わり、ともに人身取引問題に取り組んでくださる方をお待ちしています。新メンバーのシスター方の声をお届けします。



今年度よりタリタクム日本の運営メンバーに加わりました、サレジアン・シスターズのシスター宮脇道子です。タリタクム日本では、避難を必要とする被害者へのシェルター提供を行っています。これは日本の男女修道会を対象にした取り組みで、職場での不当な扱いにより住居を失った方、思わぬトラブルで行き場をなくした方、人身取引の被害を受け避難を要する方などに、一時的な生活の場を提供する活動です。海外から来られる方を含め、誰もが安心・安全な環境で暮らし、働き、幸せであることを望んでいます。しかし、現実には不当な形で苦しい状況に追い込まれる人々がいます。シェルターの提供を通して、そのような方々に寄り添うことは、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」（マタイ11:28）というイエスの言葉を生きることにつながると信じています。



援助修道会のシスター森裕子と申します。2023年から、日本にある70ほどの女子修道会をつなぐネットワーク組織から派遣されて、これまたネットワークであるタリタクム日本に加わるようになりました。私自身、人身取引に取り組む運動がなぜ「タリタクム」という名前を持つのかよく考えもしないで、また実際に起こっている人身取引の現実がどれほど複雑で闇に覆われているのか、ほとんど無知な状態で参加し始めましたが、タリタクムのメンバーたちの活動を知り、またオンラインセミナーをお手伝いしながら、誰よりも私自身が啓発されつつあります。今現在も世界の片隅で人身取引の犠牲になっている人たちのことを知れば知るほどに、主イエスの「タリタクム」と言われる声が私の中に響くようになっていきます。共に手を携えて、勇気と希望のうちに立ち上がりましょう。



2025年度より、タリタクムの委員として、主にニュースレター作成に関わっています。サレジアン・シスターズの、脇村ユキエと申します。今までは、受け取る立場でしたが、発信する側に立つことによって、直接活動をされている方々の思いや課題、また現状をより具体的に知る機会をいただき、感謝しております。タリタクム日本は、2017年に発足したと伺いました。弱い立場に置かれている、特に女性や、若者たちの命、権利が守られ、安心して生きていけるよう、呼びかけ、働きかけ続けるこの活動のうえに、これからも神様の祝福と導きを願います。課題は果てしないもののように思える時も、忍耐と希望をもって取り組み続けていくことができますよう、メンバーの皆様と協力しつつ、励んで参りたいと思います

“Compassion in Action End Human Trafficking” タリタクムアジア会議@ジャカルタに参加して

タリタクム日本運営委員
山岸素子



8月27日～30日まで、インドネシアのジャカルタでタリタクムアジアのネットワーク会議が開催され、タリタクム日本から、ユースの代表のマリエルさんと私が参加しました。今回の会議の全体テーマは“Compassion in Action End Human Trafficking”。アジアの16カ国から60名以上が参加しました。

アジア16カ国の現状報告

会議初日には、開会セレモニーとミサがあり、各国からシンボルを捧げて祝いました。日本からは平和の象徴である折り鶴を捧げました。

開会の後、6時間にわたり、南アジア・東南アジア・東アジアの16か国からの報告が行われました。アジアは移住の目的地であるだけでなく、中東などへの移住の中継地でもあることから、労働搾取、性的搾取、児童婚や子どもの搾取、特殊詐欺による搾取など、多様な形で深刻な人身取引が行われています。背景には安全でない移住、貧困や格差、紛争、気候変動があり、さらに近年はインターネットを介した搾取も増えています。

タリタクムの取り組みは国ごとに異なりますが、共通しているのは、啓発・被害者支援・アドボカシー・ネットワーク活動です。南アジア・東南アジアでは状況がとくに深刻ですが、この地域では修道会も財政基盤が脆弱なことから、アジア全域や世界のネットワークによる支え合いの重要性を強く感じました。

日本からは、主に技能実習生など外国人労働者への労働搾取の問題と、若年女性や子どもへの性的搾取がオンラインなども利用して巧妙に広がっていること、政府の対策が不十分な中、NGOやタリタクム日本でも被害者保護や啓発活動を進めていることを報告しました。

タリタクムの優先課題

各国からの報告の後、タリタクム国際コーディネーターのシスターアビーからの基調報告と問題提起がありました。シスターアビーは、アジアにおいて近年、デジタルプラットフォームによるさらに巧妙な形の人身取引や虐待が起きていること、戦争や気候変動の影響により、共同体から避難せざるをえない人々が新たな搾取にさらされていることなど、新たな課題が現れていることを指摘しました。また、国際タリタクムでは、予防・ネットワーク・研修・アドボカシー・能力構築・被害者支援において、2024年の



1年間で939,185人にアクセスしてきた実績があることを報告し、その礎の上に、2025年から2030年の5年間の取り組みのなかで、以下の3つを優先課題として提起しました。

- 1、新たな脆弱性に立ち向かうシステムの変革のため人身取引の根本原因への取り組み
- 2、サバイバー中心のアプローチ
- 3、協力とパートナーシップを拡大

会議の2日目には、サバイバーの証言と対話のセッションやインドネシアでのシェルター活動や女性と子どもへのエンパワメント、宗教間のネットワーク、ユースの活動についての報告があり、質疑応答や対話のグループワークが行われました。



タリタクムアジア、東アジアの行動計画

会議の3日目には、2日間の会議での報告や議論のまとめとして、東アジア・東南アジア・南アジアの地域ごとの行動計画とタリタクムアジア全体での行動計画について議論をしました。

東アジア(韓国・台湾・日本)のメンバーの間では、東アジアが共通して移住者の受け入れ国であることから外国人被害者への取り組みの必要性が一致しました。その中で、シェルターなどでの被害者保護とユースを中心とした啓発活動が重要であるということ、各国のユースメンバー啓発活動の情報共有やネットワークを2年後の韓国で開催されるワールドユースデーに向けて段階的に進めていけたらという具体的な行動計画を話し合いました。

タリタクムアジア全体としては、「サバイバー支援とエンパワメントのための行動計画」として、以下の5つの項目で、参加者からの提案をまとめました。

1. 支援者とサバイバーの養成、
2. アドボカシー・政策提言、
3. ネットワーキング
4. ユースアンバサダー、
5. コミュニケーション・広報

そして、行動計画を推進していくワーキングチームも確認し、最終日の朝には締めくくりのミサが行われ、タリタクムアジアの充実した会議が終了しました。

始めて会議に参加した私にとっては、休憩や食事の時間も各国からの参加者と率直な情報交換ができ、軍党政権下や圧倒的な貧困のなかで命の危険にさらされながらも活動しているアジア各国のタリタクムのシスター方の強い信念に心を揺り動かされ、ユースの活動に希望をもらい、また、参加者全員の温かさに支えられた貴重な時間でした。

送り出してくださったタリタクム日本のみなさんにもこの場をお借りして心から感謝申し上げます。



「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」(2/8)に向けた祈りのリレー



聖ジョゼッピーナ・バキータの記念日、「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」(2/8)が近づいてまいりました。この日に際し、タリタクム・インターナショナルは、「祈りのリレー」を開催し、世界各国を祈りでつなぎます。2026年のテーマとプログラムはまだ発表されていませんが、詳細が分かり次第、お知らせしますので、是非ご参加ください。

タリタクム日本の活動を支える募金の振込み先が変更になります！

タリタクム日本は、人身取引被害者の救済活動や啓発活動など、今後の活動のための募金をお願いしています。今までも、また今後も、私たちの活動は、皆様からのご寄付でなりたっております。

カトリック中央協議会の組織再編に伴い、タリタクム日本への募金の振込口座が変更になります。皆さまにご不便をおかけして、大変申し訳ありません。

来年に発行されるタリタクム日本ニュース19号で新しい振込先をお知らせし、振込用紙を同封しますので、それまでご寄付をお待ちいただきますよう、お願いいたします。

皆さまからのご支援に感謝しつつ、活動してまいりますので、タリタクム日本の活動に目を向け、これからもどうかご支援ください。

タリタクム日本

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10

HP: <https://www.jcarm.com/activity/thalitakum/>

E-mail: japantalithakum@gmail.com